

下水道の歴史



世界で一番古い下水道は、今から約4000年前に古代インドやメソポタミア（現イラク）で造られたものとされています。

本格的に下水道が整備されるのは、18世紀の産業革命の後になります。大都市に人々が集まるようになると、下水道が十分に発達していなかったため汚物は道路や庭に捨てられてとても不衛生でした。

そのため伝染病が発生し、イギリスのロンドンではコレラで2万人近い人が亡くなりました。

これをきっかけに、世界各地で下水道が整備されました。



イラスト提供：日本下水道協会

日本では

弥生時代の環濠が、排水設備の役割を果たした最初のもので推定されています。奈良時代や平安時代には、排水路が網の目のように張り巡らされていました。16世紀後半に豊臣秀吉が大阪に作った「太閤下水」の一部は今も現役で使用されています。

日本では、し尿等を農作物の肥料として利用していたため、汚物を河川に直接流すことは少なく、ヨーロッパのような深刻な不衛生状態にはなりませんでした。

しかし、明治に入り生活様式の変化や都市に人口が集中したため、雨などで汚水があふれ伝染病が発生しました。

そこで、1881年（明治14年）日本で初めての近代下水道が横浜に作られました。



太閤下水 写真提供：大阪市建設局

参考：国土交通省 都市・地域整備局 下水道部（下水道資料室 下水道の歴史）

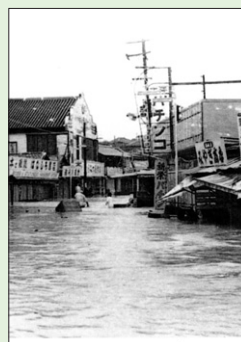
那覇市では

1935年（昭和10年）に約15キロの下水道が作られましたが、戦争により施設が破壊され本格的な供用にはいたりませんでした。

戦後、急激に人口が増加しましたが、排水設備が不十分だったため、河川へのゴミの不法投棄や生活排水などで、川の水がどんどん汚れていきました。

また、大雨が降るたびに川は氾濫し深刻な浸水被害をもたらしました。

そうしたことを背景に、1965年（昭和40年）に最初の下水道工事が若狭、辻地区で行われました。その後、昭和47年に本土復帰となり、下水道整備は急ピッチで進み、平成19年度には88.8%の普及率となりました。



◀安里川、ガープ川の改修前までは、大雨のたびにこのような浸水騒ぎがあり、被害が大きかった。



写真『那覇市の下水道30年のあゆみ』